

2. 魅力向上検討の背景等

2.1 魅力向上策検討の背景

太閤山ランドは、富山県の置県 100 年を記念して整備された。水と緑豊かな広い敷地内にプール広場やバーベキューコーナー、展望塔、スポーツ・文化活動施設など様々な施設が充実しており、ファミリー層を中心に年間約 80 万人が訪れるなど、開園以来多くの県民に愛され親しまれてきた県内最大の県立都市公園である。

一方で、開園から約 40 年が経過し施設の老朽化が進んでいるほか、社会情勢はデジタル技術の発達や SDGs の推進、官民連携による取組みの拡大など様々に変化してきている。また、こうした社会情勢の変化に伴い、利用者ニーズも変化・多様化してきている。

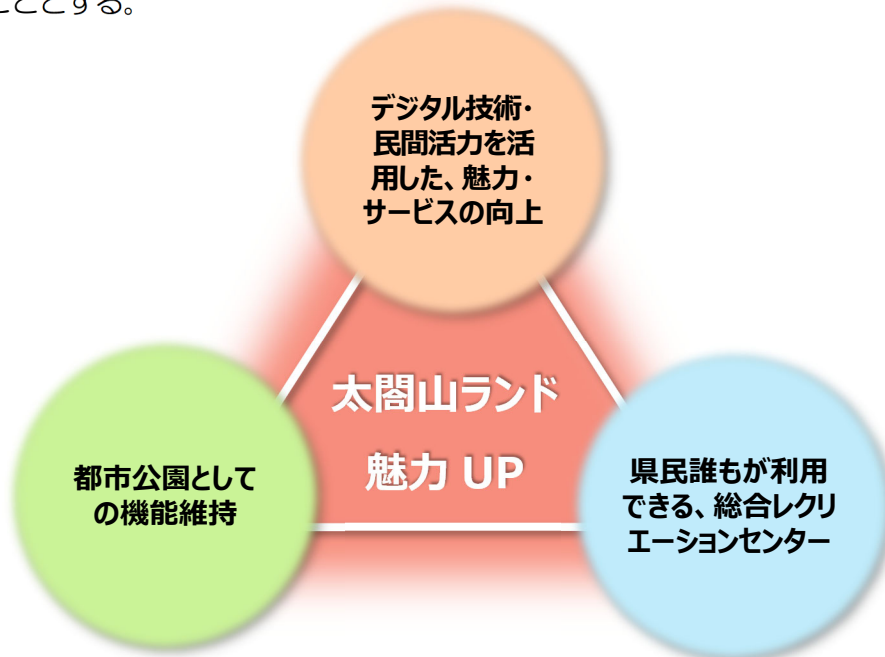
そこで、豊かな自然を活かした県民公園としての役割を保ちつつ、最先端のデジタル技術や民間活力などを活用することで新たな魅力を創造し、子どもから大人まで誰もが年間を通じて楽しめる公園とするため、魅力向上策の検討を行うこととした。



2.2 太閤山ランドの担うべき役割・機能

太閤山ランドは開園以来多くの県民に愛され親しまれており、遠足や親子で一度は行ったことのある場所として“県民のこころのふるさと”となっている。

今後はこの“県民のこころのふるさと”としての役割や都市公園、また県民誰もが利用できる、総合レクリエーションセンターとしての機能を維持しつつ、行政と民間事業者とが協働し、デジタル技術を活用してワクワクするような新たな要素を盛り込んでいくことで、年齢や性別、国籍や障害の有無などに関係なく誰もが年間を通じて楽しめ、かつ様々な利用シーンに対応できるよう、魅力をアップしていくこととする。



2.3 目指すべき公園像

(1) 目指すべき公園像

ワクワクする新たな公園文化の創造拠点

- ① SDGsなど新たなライフスタイルや時代の要請に応え、誰もが「真の幸せ」（ウェルビーイング）を実感でき、それを発信する公園
- ② ICTなど最先端技術を活用し、新たな発見やワクワクを発信するとともに、環境に配慮したスマートな公園
- ③ 多世代が集い新たな価値を生み、周辺地域を含め魅力が好循環する公園
- ④ 歴史、文化など太閤山らしさを次世代に継承する公園
- ⑤ 豊かな自然や立地などそのポテンシャルを最大限に活かした公園
- ⑥ 民間の活力を運営に取り入れた効率的で活気のある公園

(2) メインターゲット

■ ファミリー層

現在の主な利用者層であるファミリー層がより楽しめる公園とすることで、リピーターの増加が期待される。

また、現在は子どもを中心とした施設内容となっているが、子どもだけでなく一緒に訪れる親・祖父母も楽しめる空間とすることで、3世代が楽しめる公園を目指す。

■ 若者

若者が訪れたいと思う公園とすることで、現在あまり利用していない新たな年齢層の獲得を目指す。発信力の高い若者によって、公園の魅力がSNS等によって全国に発信されることで、これまで太閤山ランドを知らなかった人や県外からの来園者も期待される。

さらに、太閤山ランドの魅力を知った若者が親になり、子どもを連れて遊びに訪れることでサイクルが生まれ、世代を超えた“こころのふるさと”が継承される。

